

市議会
帰山 寿憲 議員



○ 行政機構のあり方について ○ 農業への支援について

その他の質問

- ・公共施設の整備に関して
- ・観光振興について
- ・長尾山総合公園の整備について
- ・子育て支援について

議 まちづくり会館の出先機能を強化、市民サービスの利便性を高めるべきではないか。また、正職員の定年延長が始まるが、会計年度任用職員への対応は。

理 まちづくり会館を市役所の支所機能として位置づけた出先機関にするためには、広範囲で多岐にわたる業務レベルの確保や施設設備等の課題がある。まちづくり会館で提供できる市民サービスには限りがあるが、DXを活用して幅広い地域自治の拠点となるよう機能強化を図り、市民の利便性を高める必要がある。地域福祉・地域防災に重点的に力を注いでいきたい。

また、地方公務員法やそれに基づく条例等の改正により、令和5年4月から任期の定めのない常勤職員（正職員）の定年の引上げが段階的に行われる。

会計年度任用職員は、法律や条例等の改正による影響はないが、定年引上げの動向に合わせ、令和3年度に会計年度任用職員の勤続可能年齢を68歳に引き上げるよう運用を改正した。

議 収入減少に昨年より充実した支援と、機械の維持管理・農舎や機械の整備更新に市独自の支援を行うべき。また、昨年の被災農地の復旧支援状況と今後の見込みを伺う。

理 令和5年度の農業者等への燃料・肥料・資材等高騰の支援対策は、燃料等の価格上昇率と、国や県の6月補正など支援策の動向を注視しながら検討していく。

農舎や機械の整備更新への支援は、国や県の補助事業がない設備投資について、集落機能維持につながる集落単位の営農継続の重要性から、市単独補助が可能か研究し、営農継続への支援制度の創設を国や県に要望していく。

昨年の被災農地の復旧支援状況としては、復旧を妨げないために地元負担を求めない方針としている。

災害復旧工事は、降雪期でも工事可能な箇所から進めていたが、降雪期も終わり、さらに工事の進捗を進めたい。順調に進めば、令和5年度中には復旧完了の予定。

新風会・公明
松本 聖司郎 議員



○ 恐竜学部誘致後の準備状況について ○ Uターン等人口移動に関する調査と勝山市について

議 誘致が成立し、令和7年度より永平寺キャンパスから随時、勝山の学部へ学生が入ってくることになる。知事からの要望とあわせて、学費取得や大学卒業後の「雇用体制」「世代が楽しめる物の創出」「定住化」に向けた取り組みを即座に行う必要があると考えるが、市の準備状況を伺う。

理 市内観光事業者等と連携したアルバイト先の確保や魅力的な住環境の整備など様々な支援策を検討している。

県立大学による令和6年秋の学生募集時には、勝山市内の衣食住環境、各種学生支援制度等が本学部志望の学生にPRできるよう、庁内横断的に学生や教職員の受け入れ準備を進めていく。

今回の勝山キャンパス開設は、これまで一方的に市外流出が続いていた18歳人口を市内へ流入・定着につなげるチャンス。学生の卒業後の定着には、新規企業誘致や地元企業拡大支援、観光の産業化を進め、卒業生と企業との二ーズをマッチングできるような働きかけしていく。

議 2021年の「47都道府県の寛容と幸福、人口移動に関する調査」で、福井県は家族のあり方45位、変化の受容36位等を合わせ、寛容性指標は全国37位となっている。マインビの調査でも、若者は地域に押し付けられるのを嫌う傾向があり、勝山市においては、①他を覚えようとならない市民性、②他力本願、③やる気を削ぐ、これらの行動を地域の大人が行っている現状がある。

大人が変われば子供が変わる。県の方針に合わせる考えはないか伺う。

理 転入者が安心して住みやすいまちづくりが重要で、地域住民が自由にまちづくり活動に取り組めるよう、ここに地域づくり交付金による財政的支援を行い、地域コミュニティの強化を進めている。

こうした環境を整えながら、県外・市外で活躍する人材の招聘による世代間交流や異業種交流を活性化し、地域住民とともに地域課題の解決等に継続的に関わることで、地域づくりの担い手となるような関係人口の創出、その先の移住・定住に繋げたい。